第24期新宿区社会教育委員の会議　第3回小委員会　会議結果

視点3「特別な配慮が必要な子どもについての支援」について

地域を舞台に学校をサポートしつつ、教育課程外の部分で地域協働学校として、今回のテーマについてどう取り組めるかということを考えられるきっかけとなるような報告書を作成する。

まずは地域の大人が今の子どもたちのことについて学べる機会を作る必要がある。

また、特別な配慮が必要な子どもは多様であるから、一人ひとりの特性をどう理解し、個別支援的な発想を持ちながら集団的な関わりをどうつくっていけるか検討していく必要がある。

現状として子どもだけでなく、アタッチメントが不安定な保護者も増えてきており、より地域で子どもを育てるという意識が必要になってきている。アタッチメント形成のためにも幼少期の体験や関わりが重要であることを伝えていかなければならない。そこで、地域協働学校が重要になってくる。ただし、地域協働学校は学校と地域を繋ぐツールであり、全て地域協働学校で担うのではなく、地域の中でそれぞれができることを検討してもらいたい。

具体的には、学童や放課後子どもひろば等世代間の交流を目的としていない場所で世代間コミュニケーションが成り立つ場所ができるとよい。その他にも困っている人と助けられる人をうまくマッチングできるコーディネーター的役割の設置、部活の地域移行（部活と接点を地域がうまく持てないか）、家庭科の授業のサポート（地域の人が授業フォローに入れないか）、学童や放課後子どもひろばと地域が関係をもつ、既にある地域の活動に子どもが関わる（パトロール等）などが考えられる。

まとめ

特別な配慮が必要な子どもは多様で、一人ひとりの特性をどう理解し、個別支援的な発想を持ちながら集団的な関わりをつくっていけるか検討し、地域協働学校の委員に地域で子どもを育てることについて考えてもらえるきっかけとなるようにまとめていく。